

令和5年度 調布市立富士見台小学校 学校経営計画（学校長 小俣 弘子）

学校の教育目標	
深く考える子（知識や技能を身に付け、それらを活用し、問題の解決に向けて追究することができる児童）	
自他を愛する子（自他を尊重し、認め合いながら協力して行動することができる児童）	
自ら鍛える子（自分のめあてを自覚して、工夫しながら粘り強く取り組むことができる児童）	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの可能性を伸ばし、一人一人が輝く学校（自己肯定感・自己有用感の醸成） 「自分のよさを育てよう！ 友達のよさを伝え合おう！」 ・子どもの心と言葉を育てる学校 「相手を大切にしたい あいさつをしよう」 	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく素直で、挨拶が上手な児童が多い。このよさを活かして、だれに対しても相手を大切に思い、その気持ちを言葉遣いや行動に表すことができる児童を育成する。 ・学校評価アンケート（児童）より、自分に自信がなく自己肯定感が低い児童が一定数いることが分かった。一人一人のよさや可能性を伸ばすために、互いに認め合い高め合いながら、主体的に問題を解決する力をつけていくことで自己肯定感を高め、自分に自信をもって次にチャレンジする向上心を育てることができると考える。
中期的な経営目標	
<ol style="list-style-type: none"> 自己指導能力を高め、自他を尊重し、認め合いながら自律した言動がとれる児童を育成する。 主体的で対話的な学びを通して自ら問題を解決し、自分の可能性を伸ばしていく児童を育成する。（自己肯定感・自己有用感の向上） 健康保持・体力増進に努めるとともに、自分の命を大切にするための安全な生活ができる児童を育成する。 全ての基盤となる言語能力と情報活用能力の向上を目指し、言語環境を整えるとともに読書活動の推進や対話的な学びの充実を図る。 通常の学級・特別支援学級・特別支援教室等の組織的連携を図りながら、個別最適化した特別支援教育を推進していく。 保護者・地域と連携し、学校情報を共有し共に児童を育てる意識の向上を図るとともに、CS へ向けた理解促進に努める。 <p>人・組 職層に応じた自身の役割を自覚し、学校経営方針を実現させるための取組を工夫しながら取り組むことができる組織。</p>	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）
①「学習&生活のルール」を全校で共有し、規律の定着を図ることで安心できる生活環境を整える。また、いじめに関する授業の実施及び研修を通して、教員の指導力向上を図り、児童の自己理解・他者理解を深めていく。	①自ら課題をもち、主体的、対話的に考え、問題解決できる児童を育成するために、授業改善を積極的に行う。【タブレット端末の利活用、ユニバーサルデザインの視点（ハンドサイン等）、少人数指導等】	①安全面（食・災害・交通・生活等）において、児童には、正しい知識を身に付けさせるとともに、教職員全員の危機管理意識を高度に保つ。教職員全体で、元保護者による講話及び年3回の食物アレルギー研修とシミュレーション訓練の実施を通して、対応マニュアルの周知徹底と確実な実施を行う。
②自他共に大切にできる児童を育成するために、人権尊重の精神に基づき、多様性を認める授業を実践し、誰に対しても相手を大切にしたいをもち、あいさつなどの言葉遣いや行動に表すことができるようにする。	②自分のよさや可能性を伸ばすために自らを鍛え努力を積み重ねると同時に、一人一人の頑張りを周りの人が認め、褒め、励ますことで自分に自信をもち、自己肯定感や自己有用感を高めるようにする。	②体力向上を図る取組（年間2回以上）や運動会を工夫して実践し、運動の楽しさを味わわせる。また、体力テストを通じて課題を見つけ、改善に向けて取り組むようにする。
(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）
① 学校評価アンケート(児童・保護者)において「基本的生活習慣」の項目に対する肯定的な回答90%以上を目指す。	①学校評価アンケートにおいて、「学力定着」(児童・保護者)90%以上、「少人数指導」(児童)が82%以上にする。	①・食物アレルギー事故及びヒヤリハット事例のゼロを目指す。 ・学校評価アンケート(児童・保護者・教員)「安全・安心」の項目に対して肯定的評価が90%以上を目指す。
②学校評価アンケート(児童・保護者)において学校が楽しいと肯定的な回答95%以上を目指す。	② 学校評価アンケート(児童)「自己肯定感・自己有用感」の項目に対する肯定的評価を85%以上にする。	②学校評価アンケート(児童・保護者)において、健康教育の項目への肯定的な回答90%以上を目指す。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

4 言語能力・情報活用能力の向上	5 特別支援教育	6 地域との連携
(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）
① 考えを言語化するための「伝え方ワード」を実態に応じて具体的に指導し、協働的な学びの充実を図る。また、iPad を活用し、必要な情報を集め判断する活動を通して、言語能力・情報活用能力の向上を図る。	①計画に沿った特別支援学級児童と通常の学級児童との交流・共同学習を進め、多様性尊重への理解促進を図る。また個別最適化した支援や環境を提供できるよう相談体制の充実も図る。	①「地域学校協働本部」の活動を更に充実させ、「放課後学習教室」や「漢字検定」、外部人材の活用等の取組を児童の学習意欲向上につなげていく。
②年間 2 回の読書月間を中心に読書活動を推進するとともに、日常的な言葉遣いの指導等を通して、言語感覚を養い、豊かな言葉の獲得を目指す。	②特別支援教室での指導が、在籍学級での指導・支援に活かされるよう、専門員やコーディネーターを窓口として円滑な連携が図られるようにする。	②学校だよりやホームページ、クラスルーム、保護者会等を通じて学校情報を共有し、共に同じ方向を向いて児童を育てる意識を高める。
(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）
① 学校評価アンケート(児童・保護者)において、「言語活動」及び「ICT 機器の活用」項目への肯定的な回答85%以上を目指す。	①学校評価アンケート(児童・保護者)において「自他を愛する」の項目に対する肯定的な回答90%以上を目指す。	①学校評価アンケートにおいて、「地域学校協働本部」(児童・保護者)への肯定的な回答85%以上を目指す。また、保護者の「分からない」への回答13%

<p>②学校評価アンケート(児童・保護者)において、「読書活動」項目への肯定的な回答88%以上を目指す。</p>	<p>② 学校評価アンケート(児童・保護者)において、「特別支援教育 相談する」項目への肯定的な回答80%以上を目指す。</p>	<p>以下を目指す。 ②学校評価アンケート(児童・保護者)において「情報発信」の項目に対する肯定的な回答85%以上を目指す。</p>
--	--	--

人材育成・組織運営
<ul style="list-style-type: none"> • 主幹教諭をリーダーとして主任教諭の能力を生かした OJT の充実(月1回)を図る。(若手教員の育成, 授業力の向上) • 組織の一員として, 担当の分掌に責任をもち, 前年度踏襲に終わらず, 校務改善に向けて改善案を提案する。 • 教員が健康で澁澁と児童の教育に邁進できるように, ライフワークバランスを推進する。(在校時間の管理(月平均45時間以下)メンタルヘルス全員面接等)